

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 公開文書

① 研究課題名	online faculty development の実践報告とその効果およびモデルの構築
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
2020 年 4 月から 7 月まで行ったオンライン上で行った計 6 回の「Zoom を使ったオンライン講義のコツと落とし穴」、および計 10 回の「Zoom 事例検討会」の講義の参加者とします。	
③ 概要	
新型コロナウイルスパンデミックにより、これまで医師が対面式で行って来た学生講義、学生教育、研修医教育、生涯教育がオンラインで行われることになりました。オンライン教育では Zoom などの web 会議システムを利用するに必要があります。しかし、医師は web 会議システムの使い方に慣れていません。教員などに「教えた方を教えること」をファカルティディベロップメントと言います。また新型コロナウイルスパンデミック期には、それをオンラインで行う必要があります。今回、我々は医師などに対して行ったオンライン ファカルティディベロップメントの実践報告とその効果を調べ、そこからモデルの構築を報告する研究を計画しています。	
④申請番号	2020-0233
④ 研究の目的・意義	新型コロナウイルスパンデミック期にオンライン ファカルティディベロップメントの実践報告と有効性を報告することで、教員がオンラインで教え方を教える方法を知り、またその方法について改善できる可能性があります。
⑤ 研究期間	倫理審査委員会承認日から2024年8月30日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	2020 年 4 月から 7 月まで行った「Zoom を使ったオンライン講義のコツと落とし穴」および「Zoom 事例検討会」の参加者のアンケート結果から情報を抽出し、実践報告とその効果を解析します。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行います。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
⑧利用または提供する情報の項目	① 「Zoom を使ったオンライン講義のコツと落とし穴」の参加者 講義中、講義後に zoom の投票機能、google form を用いて無記名のアンケート調査を行いました。そのアンケート結果を

	利用します。内容は、所属科、満足度、理解度、今後 Zoom を使いたいのか？今後教育コンテンツを使いたいのか？次求める教育コンテンツは？の質問です。また、記述式のアンケートとして、講義の感想や意見の質問です。 ② 「Zoom 事例検討会」の参加者 検討会後に google form を用いて無記名のアンケート調査を行いました。そのアンケート結果です。内容は、満足度、理解度、今後 Zoom を使いたいのか？今後教育コンテンツを使いたいのか？次求める教育コンテンツは？の質問です。また、記述式のアンケートとして、検討会の感想や意見の質問です。
⑨利用する者の範囲	新潟大学 産科婦人科 教授 磯部 真倫 名古屋大学 総合医学教育センター 教授 錦織 宏
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	本学：新潟大学 産科婦人科 磯部真倫
⑪お問い合わせ先	所属：新潟大学 氏名：磯部真倫 Tel：025-227-2320 E-mail：montedio1013@med.niigata-u.ac.jp

※オプトアウト書式は、倫理システムの申請画面末尾の添付資料欄に掲載すると共に、承認後は「④」に申請番号（承認番号）を記載のうえ、ethics@adm.niigata-u.ac.jp に原稿をお送りください。ホームページに掲載いたします。